

ビジネスルール・マニフェスト

ルール独立の原則

ビジネスルールグループ

第1条 二次的な要求ではなく、一次的な要求である

- 1.1 ルールは要求の世界に住む第一級の市民である。
- 1.2 ルールは、ビジネスモデルにとってもテクノロジーモデルにとっても必要不可欠な部品である。

第2条 プロセスに包含されるものではなく、プロセスとは独立したものである

- 2.1 ルールは振る舞いに対する明示的な制約条件であり、かつ／または、振る舞いを支えるものである。
- 2.2 ルールはプロセスでもなければ手続きでもない。ルールはそのどちらにも含まれるべきではない。
- 2.3 ルールは、プロセスと手続きの全体に適用される。ビジネス活動に関連するすべての領域をまたがって一貫して適用できる、まとまったルールが一組存在しなければならない。

第3条 副次的な成果物ではなく、熟考された知識である

- 3.1 ルールはファクトにもとづいて構築される。ファクトはコンセプトにもとづいて構築され、そのコンセプトは用語によって表現される。
- 3.2 用語はビジネスコンセプトを表現する。ファクトはそのコンセプトに関する表明である。ルールはそのファクトを制約すると同時に支えるものである。
- 3.3 ルールは明確でなければならない。どのようなコンセプトやファクトであっても、仮定にもとづいたルールはあり得ない。

3.4 ルールはビジネスのビジネス自体に対する理解の基礎である。つまりビジネス知識の基礎である。

3.5 ルールは醸成し、保護し、管理する必要がある。

第4条 手続きではなく、宣言である

4.1 ルールは、ビジネス関係者が理解できるように、自然言語を用いて宣言として表現しなければならない。

4.2 表現できないものはルールではない。

4.3 ひと組の文が宣言であるといえるのは、そのひと組の中の文が暗黙の優先順位をもたない場合のみである。

4.4 用語とファクト以外の要素がなければ構成できないルール文は、システムの実装に関する前提条件を暗示している。

4.5 ルールとその定義にしたがって実施されるものとは異なる。ルールとその実施とはまったく違う話である。

4.6 ルールは、いつ、どこで、誰が、どうやって実施するかという責任とは独立して定義しなければならない。

4.7 ルールに対する例外は他のルールによって表現される。

第5条 場当たりのなものではなく、きちんと形式化された表現である

5.1 ビジネスルールは、ビジネス組織の人々がその正確さを確認できるように表現しなければならない。

5.2 ビジネスルールは、ルール間の一貫性を相互に検証できるように表現しなければならない。

5.3 述語論理等の形式論理は、ビジネス用語を用いてルールをきちんと形式化した表現の基礎で

あり、ビジネスルールを実装するテクノロジーの基礎でもある。

第6条 ルールを間接的に実装するのではなく、ルールにもとづくアーキテクチャを考える

- 6.1 ビジネスルールのアプリケーションは、ビジネスルールの継続的な変更に対応できるように意図して構築する。そのアプリケーションを実行するプラットフォームは、こうした継続的な変更を支えられるものでなければならない。
- 6.2 ルールの実装戦略においては、ルールを手続きの形式に変換するよりも、ルールエンジン等により直接実行する方が望ましい。
- 6.3 ビジネスルールシステムは、結論に達した、または行動に移した理由の説明が常に可能でなければならない。
- 6.4 ルールは、それが真であるかどうかの決定に基づいている。その決定がどのように下され、どのように維持されているかは、ユーザーにはわからない。
- 6.5 通常の場合、イベントとルールとは多対多の関係にある。

第7条 例外にもとづくプログラミングではなく、ルールが導くプロセスを考える

- 7.1 許容可能なビジネス活動と許容不可能なビジネス活動の境界を定義するのはルールである。
- 7.2 ルールは、検出したルール違反に対して、特別な、あるいは選択的な対応を求めることが多い。こうしたルール違反に対するアクティビティも、他のすべてのアクティビティと同様のアクティビティである。
- 7.3 許容不可能なビジネス活動への対応は、許容可能なビジネス活動への対応とは切り離しておく、できる限りの一貫性を保つとともに再利用可能なものにしなければならない。

第8条 テクノロジーのためのルールではなく、ビジネスのためのルールである

- 8.1 ルールはビジネスの実践であり、ビジネスの指針である。つまり、ルールはビジネスのゴールと目標によって導かれ、さまざまな影響要因によって形づくられる。

8.2 ルールは常にビジネスに対するコストとなる。

8.3 ルールを実施するコストは、ビジネスリスクや、ビジネス機会の損失の可能性と見合ったものでなければならない。

8.4 「より多くのルール」を求めない方がよい。一般的に、少数の「良いルール」を求める方がよい。

8.5 少数のルールから有効なシステムを構築することができる。あまり一般的でないルールは後から追加していけばよい。そうすることで、時間とともにシステムが洗練されていく。

第9条 IT組織の人々のルールではなく、ビジネス組織の人々の、ビジネス組織の人々による、ビジネス組織の人々のためのルールである

- 9.1 ルールは、ビジネス組織の人々の知恵から生まれるものでなければならない。
- 9.2 ビジネス組織の人々は、ルールを形式化し、その妥当性を確認し、管理するためのツールを利用できなければならない。
- 9.3 ビジネス組織の人々は、ルール間の一貫性を相互に検証するためのツールを利用できなければならない。

第10条 ハードウェアやソフトウェアのプラットフォームではなく、ビジネスロジックをマネジメントするものである

- 10.1 ビジネスルールはビジネスに欠かせない資産である。
- 10.2 長期的に見たとき、ルールは、ハードウェアやソフトウェアのプラットフォームに対するよりもビジネスに対する重要性が高い。
- 10.3 ビジネスルールは整理して保存しておき、新しいハードウェアやソフトウェアのプラットフォームに対しても簡単に適用できるようにしておかなければならない。
- 10.4 ルールおよびルールを効果的に変更する能力は、ビジネスを新しい環境に適応させ進化させていくための基盤となる。

